

技術・家庭科（技術分野）

技術・家庭科（技術分野）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。
- 4 持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けられるよう、生徒が技術の仕組みや役割、進展等を科学的に理解したり、日常生活や社会における技術に関わる問題を見出し解決策を構想したり、実践を評価・改善したりできるよう、技術の見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。
- 5 安全面・衛生面に対して十分留意して活動できるよう配慮されているとともに、4分野の内容が適切な分量でバランスよく取り上げられていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

技術・家庭科（技術分野）

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」

各節冒頭に「目標」「キーワード」が示され、最後に「まとめよう」や「生活に生かそう」とともに「自己評価」欄で学習状況を振り返る構成で統一されている。また、技術の原理・法則や仕組みを理解する章の章末には、「チェック技術の見方・考え方」が設定され、そこでの振り返りが次章での問題解決に生かされる構成とするなど、生徒が見通しと課題意識を持って学習を進められるよう工夫されており、優れている。

また、巻頭ページで思考ツールを使った課題設定の方法や、グループの話し合い活動を紹介するとともに、各編では、問題解決のプロセスを5つのステップで統一的に構成し、「問題解決カード」をプロセスごとに示すことで、生徒が見通しを持って問題解決的な学習に取り組めるようよく工夫されている。

さらに、巻頭のガイダンスで、これから学習する技術の内容が、生活や社会の中でどのように活用されているかを、身の回りの製品を例にして紹介されたり、コラム「技術の匠」では、技術者が製品開発に込めた思いが伝わる資料を掲載したりすることで、生徒が社会と技術の学習とのつながりを実感できるよう優れた工夫がされている。

ページ中心部に穴を開けた「最適化の窓」や「技術の最適化って何だろう」において、技術の最適化の概念や、実際の製品に活用されている事例について紹介するとともに、巻末では10年後、50年後の未来を予測する活動や、最新のテクノロジーを紹介するなど、発展的な学習へと結び付けるよう工夫されている。

プログラミングについては、学習状況に応じた豊富な問題解決例と様々な学校環境に対応できるプログラミング言語が紹介されている。また、全ての問題解決例に「Next評価、改善・修正」が設けられ、生徒が基本的なコンテンツを改善・修正する活動に取り組めるよう工夫されている。

■教育図書「New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する技術ハンドブック」

各節冒頭に「めあて」「キーワード」が示され、最後の「振り返る」で「めあて」に対応した学習内容を確認する設定とすることで、生徒が学習内容や重要ポイントを確認できるとともに、習得度合いを自ら確認できるよう工夫されている。

また、各編で問題解決に向けた設計・計画の手順を4ステップで統一するとともに、ステップごとの事例が多く示されている。さらに、登場するキャラクターの問いかけも問題解決のヒントや発表、話し合い活動につながる内容とするなど、工夫されている。

随所に掲載されているコラム「スゴ技」「技ビト」では、生活や社会の中で活躍する機械や、伝統工芸品などを取り上げるとともに、生産者や開発者が製品に込めた思いが伝わるメッセージを紹介するなど、生徒の学習に対する意欲を高める手立てがされている。また、最後の編に「夢をかなえる技術」として2足歩行ロボットの作成方法などを紹介するなど、習得した知識・技能をもとに発展的な学習に結び付くよう工夫されており、優れている。

冒頭の見開きやガイダンス，各編導入部分における生活や社会における技術の役割に関する分野ごとの具体的な例示とともに，各編のまとめでは，生徒がこれからの生活や社会への技術の役割や影響，生かし方について考えることで，技術の学習を身近で興味深いものと感じることができるよう工夫されているが，最適化の概念の説明や取扱いが不十分である。

また，特集ページ「プログラムを学ぼう」におけるプログラミングに関する解説・説明や，活動内のアクティビティ図の説明は充実しているが，学習に必要な情報量としては過多気味であり，学習しづらい。

■開隆堂出版「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」

各節冒頭に「学習の目標」が示され，学習のまとまりの最後には「ふり返り」や各編の最後に「学習のまとめ」を設けることで，生徒が一定の学習のまとまりごとに，まとめや自己評価ができるよう工夫されている。

また，各編の見開きには，問題解決に必要な要素と流れがひと目でわかるようまとめられており，生徒にとって問題解決の流れがイメージしやすい構成となっている。さらに，成果の発表や自己評価，生徒同士の相互評価を通して，言語活動が充実するよう工夫されている。

巻頭のガイダンスで，身の回りの製品の工夫点や製作者の思いや願いを紹介することを通して，生徒が技術の見方・考え方に気付けるようにするとともに，各編の導入では，世界や日本の技術の歴史を通して，生活や社会での技術の役割や進展についての理解を促すよう工夫されている。

導入の編「材料と加工の技術」の中で「トレードオフと最適化」のページを設け，技術の最適化について図を用いて説明した上で，その後すべての問題解決学習では，「トレードオフ」という言葉を一貫して用いることで，生徒が最適化を捉えやすく，繰り返し学習できるよう工夫されている。また，随所に掲載されている「参考」において，3DCADや3Dプリンタなどの現在の新しい技術と，その技術が幅広い分野で応用されていることを紹介するなど，生徒の発展的な学習へと結び付くよう工夫されている。

さらに，プログラミングに対する本質的な理解を図るための基礎・基本が充実しているとともに，基礎・基本を活用してプログラムを構想するアクティビティ図やプログラムの例など，生徒が具体的にイメージをもって学習に取り組めるよう工夫されている。

※詳細の結果・データは，観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点			東京書籍	教育図書	開隆堂
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること	1	基礎的基本的な学習内容の定着に向けた工夫	○	○	○	
		2	指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)の明示	◎	○	○	
2	習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1	習得した知識・技能の活用を促す工夫	○	○	○	
		2	問題解決的な学習や言語活動の充実の工夫	◎	○	○	
		3	思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫	○	○	○	
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること	1	主体的・対話的な学習に向けた工夫	○	○	○	
		2	探究意欲を高める工夫	○	○	○	
		3	発展的な学習活動につながる工夫	○	◎	○	
4	持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けられるよう、生徒が技術の仕組みや役割、進展等を科学的に理解したり、日常生活や社会における技術に関わる問題を見出し解決策を構想したり、実践を評価・改善したりできるよう、技術の見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること	1	生活や社会での技術の役割、進展の理解への工夫	◎	○	○	
		2	技術を日常生活や社会に生かし、最適化するための工夫	◎	△	○	
		3	社会的、環境的、経済的に技術を評価する能力の育成に向けた工夫	○	○	◎	
5	安全面・衛生面に対して十分留意して活動できるよう配慮されているとともに、4分野の内容が適切な分量でバランスよく取り上げられていること	1	安全・衛生への着目点の提示や自覚を促す工夫	○	○	○	
		2	4分野の分量等の適切さ	○	○	○	
		3	プログラミング教育の充実	○	△	○	
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察するための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること	1	人権教育の推進	○	○	○	
		2	道徳教育の推進	◎	○	○	
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること	1	題材構成の系統性・発展性	○	○	○	
		2	他教科や教育課題等との関連	○	○	○	
		3	他校種との接続	○	△	○	
		4	家庭・地域との連携	○	○	○	
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること	1	文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○	○	
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	

【技術・家庭科（技術分野）】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
2 東書	6 教図	9 開隆堂
<p>○工具や機器の作業方法や手順など、基礎的な技能とともに、生徒のつまづきなど作業工程で生じる様々な問題を解決するための「検査・修正」の方法についても「テックラボ」にまとめて掲載することにより、生徒の振り返りを容易にするなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得に向け、工夫されている。</p> <p>○各節冒頭に「目標」「キーワード」が示され、最後に「まとめよう」や「生活に生かそう」とともに「自己評価」欄で学習状況を振り返る構成で統一されている。また、技術の原理・法則や仕組みを理解する章の章末には、「チェック技術の見方・考え方」が設定され、そこでの振り返りが次章での問題解決に生かされる構成とするなど、生徒が見通しと課題意識を持って学習を進められるよう工夫されており、優れている。</p>	<p>○技術の原理・法則や仕組みを理解する章では、簡単な製作や生物育成などの活動を通して、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。また、実習の基礎技能を別冊の「技術ハンドブック」にまとめることで、生徒が必要なときに各種基礎技能を確認することができるよう工夫されている。</p> <p>○各節冒頭に「めあて」「キーワード」が示され、最後の「ふり返る」で「めあて」に対応した学習内容を確認する設定とすることで、生徒が学習内容や重要ポイントを確認できるとともに、習得度合いを自ら確認できるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒目線の写真やイラストなど、わかりやすい図版・イラスト・写真が掲載されるとともに、各編の最初に身近な技術を調べたり、考えたりする「～してみよう」などの活動を設定することで、生徒の興味関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながるよう工夫されている。</p> <p>○各節冒頭に「学習の目標」が示され、学習のまとまりの最後には「ふり返り」や各編の最後に「学習のまとめ」を設けることで、生徒が一定の学習のまとまりごとに、学習のまとめや自己評価ができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
<p>○学習した内容を製作や生物育成などの実習で生かすことができる構成とすることで、生徒が習得した知識・技能を活用し、自ら設定した問題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭ページで思考ツールを使った課題設定の方法や、グループの話し合い活動を紹介するとともに、各編では、問題解決のプロセスを5つのステップで統一的に構成し、「問題解決カード」をプロセスごとに示すことで、生徒が自らの問題解決への見通しを持って、問題解決的な学習に取り組めるようよく工夫されている。</p> <p>○各編の最終章では、技術の見方・考え方を働かせながら、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりするためのワークシートを活用する活動が設定されており、生徒が生活や社会をよりよくするための技術の改良、応用について考えることを通して、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。</p>	<p>○「つくってみよう」「育ててみよう」において、図版・イラスト・写真がわかりやすく掲載されるとともに、「技能チェック」として、実践的・体験的な学習を通して、学んだ知識・技能の定着度を確認する構成となっており、生徒が実習をしながら習得した知識・技能の活用を促すよう工夫されている。</p> <p>○各編で、問題解決に向けた設計・計画の手順を4ステップで統一するとともに、ステップごとの事例が多く示されている。また、登場するキャラクターの問いかげを問題解決のヒントや発表、話し合い活動につながる内容とするなど、工夫されている。</p> <p>○各編のまとめでは、学習したことをもとに「プラス面」「マイナス面」をまとめ、生徒がこれからの生活や社会への技術の役割や影響、生かし方について考えることで、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒にとって身近な内容で、学んだ知識を活用できる実験の内容となっており、科学的な根拠に基づき学習を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○各編の見開きには、問題解決に必要な要素と流れがひと目でわかるようまとめられており、生徒にとって問題解決の流れがイメージしやすい構成となっている。また、成果の発表や自己評価、生徒同士の相互評価を通して、言語活動が充実するよう工夫されている。</p> <p>○各実習において、生徒が学習した内容を生かし、「問題の発見」「課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価・改善」の学習の流れの中で、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。</p>	

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
<p>○一連の学習過程の中に、主体的に調べたり、他者と協働して比較・検討したりするための学習活動が設定されており、生徒が主体的・対話的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○学習内容と関連し、生徒の学びがさらに広がるよう、災害時の電気事故の防止策など、生徒にとって興味深い様々な特集が「資料」として掲載されており、探究意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各編の最終章では、学習を通して自身が身に付けた資質・能力を確認できるよう「学習のまとめ」が設定されている。また、巻末では10年後、50年後の未来を予測する活動や、最新のテクノロジーを紹介するなど、発展的な学習へと結び付けるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒の主体的・対話的な学習活動に結び付くよう、各節に話し合い活動の中から解決方法を探る「見つける」活動が対話形式で紹介されているなど、工夫されている。</p> <p>○「もっと知ろう」では、学習内容からの学びがさらに広がるよう、遺伝子組換え食品の紹介など、身近な生活に関わる内容が取り上げられており、生徒の探究意欲が高められるよう工夫されている。</p> <p>○随所に掲載されているコラム「スゴ技」「技ビト」では、生活や社会の中で活躍する機械や、伝統工芸品などを取り上げるとともに、生産者や開発者が製品に込めた思いが伝わるメッセージを紹介するなど、生徒の学習に対する意欲を高める手立てがされている。また、最後の編に「夢をかなえる技術」として2足歩行ロボットの作成方法などを紹介するなど、習得した知識・技能をもとに発展的な学習に結び付くよう工夫されており、優れている。</p>	<p>○各節が「学習の目標」に応じた「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」の流れとなっており、生徒が主体的・対話的な学習にスムーズに取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○生徒が学習内容を深めたり広げたりしていくことができるよう、随所に掲載されているコラム「探究」では、「災害を防ぐ森林の働き」など、生活の中の技術に関する内容が掲載されており、探究意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○随所に掲載されている「参考」において、3DCADや3Dプリンタなどの現在の新しい技術と、その技術が幅広い分野で応用されていることを紹介するなど、生徒の発展的な学習へと結び付くよう工夫されている。</p>	

【選定の観点4】

持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けられるよう、生徒が技術の仕組みや役割、進展等を科学的に理解したり、日常生活や社会における技術に関わる問題を見出し解決策を構想したり、実践を評価・改善したりできるよう、技術の見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
	<p>○巻頭のガイダンスで、これから学習する技術の内容が、生活や社会の中でどのように活用されているかを、身の回りの製品を例にして工夫を紹介したり、コラム「技術の匠」では、技術者が製品開発に込めた思いが伝わる資料を掲載したりすることで、生徒が社会と技術の学習とのつながりを実感できるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○巻頭ページ中心部に穴を開けた「最適化の窓」や「技術の最適化って何だろう」において、技術の最適化の概念や、実際の製品に活用されている事例について紹介するとともに、各編導入の「発見！技術の最適化」では、その編の学習内容ごとに技術の最適化について考える構成となっており、生徒が技術の見方・考え方を働かせ、技術の工夫について考えられるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○各編末では自身が製作の過程で行った最適化のための工夫や、その最適化が社会でどのように活用できるかを考えることにより、生徒の「社会的・経済的・環境的側面」から技術の評価する力と、技術の見方・考え方を働かせた問題解決能力を育成できるよう工夫されている。</p>	<p>○冒頭の見開きやガイダンス、各編導入部分で、生活や社会における技術の役割を分野ごとに具体的に例示することで、生徒が技術の学習を身近で興味深いものと感じることができるよう工夫されている。</p> <p>○技術の見方・考え方を育成するために、既存の製品に応用されている工夫を紹介するページはあるものの、冒頭のガイダンスを含め、最適化の概念の説明や取扱いが不十分である。</p> <p>○各編末では、4つの具体例を示し、活用されている技術を「プラス面」と「マイナス面」に整理しながら学習内容を振り返るとともに、社会への生かし方を考える構成となっており、生徒の社会的・経済的・環境的側面から技術の評価する能力を育成できるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭のガイダンスで、身の回りの製品の工夫点や製作者の思いや願いを紹介することを通して、生徒が技術の見方・考え方に気付けるようにするとともに、各編の導入では、世界や日本の技術の歴史を通して、生活や社会での技術の役割や進展についての理解を促すよう工夫されている。</p> <p>○導入の編「材料と加工の技術」の中で「トレードオフと最適化」のページを設け、技術の最適化について図を用いて説明した上で、その後すべての問題解決学習では、「トレードオフ」という言葉を一貫して用いることで、生徒が最適化を捉えやすく、繰り返し学習できるよう工夫されている。</p> <p>○各編末では、問題解決の振り返りと技術の概念を統一的な図で表記し、「社会的な側面・経済的な側面・環境的な側面」から自身の製作物を考え、より良い製品へと改良・工夫する活動が設定されている。また、3側面の制約条件の違いによる具体的な最適化試作を、写真や図などを用いてわかりやすく、コンパクトに例示することで、生徒が技術の見方・考え方を働かせた問題解決に取り組みやすいよう優れた工夫がされている。</p>

【選定の観点5】

安全面・衛生面に対して十分留意して活動できるよう配慮されているとともに、4分野の内容が適切な分量でバランスよく取り上げられていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
	<p>○巻頭のガイダンスにおいて、安全のための3つの視点をイラストでわかりやすく簡潔に示し、生徒が安全上気を付ける事項がまとめられている。また、実習中注意すべき事項は、「安全」「衛生」マークを用いて詳細に示されているとともに、実生活にも結び付けられる内容とするなど、工夫されている。</p> <p>○4分野の分量は、時数、学期、学年配分などから見て偏りがなく、適切な分量となるよう配慮されている。</p> <p>○プログラミングについて、生徒それぞれの問題解決につながるよう、学習状況に応じた豊富な問題解決例と様々な学校環境に対応できるプログラミング言語が紹介されている。また、全ての問題解決例に「Next評価、改善・修正」が設けられ、生徒が基本的なコンテンツから改善・修正について考えられるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭のガイダンスにおいて、気を付けるべき「3つの心得」をイラストも含めわかりやすく提示し、生徒が学習を安全に進めるために必要な事項がまとめられている。また、学習の過程の中に「安全」「衛生」マークが付され、生徒がわかりやすい写真やイラストなどで示すよう工夫されている。</p> <p>○4分野の分量は、時数、学期、学年配分などから見て偏りがなく、適切な分量となるよう配慮されている。</p> <p>○特集ページ「プログラムを学ぼう」におけるプログラミングに関する解説・説明や、活動内のアクティビティ図の説明が充実しているが、学習に必要な情報量としては過多気味であり、学習しづらい。</p>	<p>○巻頭のガイダンス「作業の安全」において、安全に対する心構えと対応が示されているとともに、「課題」でイラストを見ながら生徒に話し合い活動を促し、安全に対する意識を向上させる工夫がされている。また、「安全」マークが付され、各編の実習前に安全面で配慮すべき事項が記述されていることで、生徒が作業に即した注意点を意識できるよう工夫されている。</p> <p>○4分野の分量は、時数、学期、学年配分などから見て偏りがなく、適切な分量となるよう配慮されている。</p> <p>○プログラミングに対する本質的な理解を図るための基礎・基本に関する内容が充実しているとともに、基礎・基本を活用してプログラムを構想するアクティビティ図やプログラムの例など、生徒が具体的にイメージをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
	<p>○スポーツ用義足を製作している技術者や福祉車両を紹介するなど、障害のある人を支える技術について具体例をあげて紹介されており、共生社会への意識を高めることに配慮した構成となっている。</p> <p>○情報モラルに関する内容についてはマークを付し、図やイラストの掲載、他教科との関連、コンテンツの充実など、情報を安全かつ適切に活用する能力を高めるための内容が充実していることに加え、道徳との関連部分にはマークを付すとともに学習内容も示されており、生徒が道徳教育との関連を意識し、具体的な行動につなげられるよう優れた工夫がされている。</p>	<p>○写真やイラストに登場する男女の比率、役割などに偏りがないう配慮されている。また、障害のある人を支える技術について具体例をあげて紹介することで、生活や社会における困りを解決する方法や、人の役に立つ喜びにつながる学習など、人権意識を高められるよう工夫されている。</p> <p>○「情報モラル」について、関連する資料・図説の解説だけでなく、「やってみよう」で実際の事例やネット依存度のチェックができるようにするなど、道徳教育との接続にも配慮されている。</p>	<p>○写真やイラストに登場する男女に偏りがないう配慮されている。また、「情報の表現と伝達」の題材では、「使いやすさを工夫した情報の表現」としてユニバーサルデザインについて具体的に記載されているなど、人権教育との関連が図られている。</p> <p>○巻末の折り込み「携帯電話の利用 こんなときどうする？」では、携帯電話の利用に際し、日常生活で起こりうる具体的な問題と解決の視点を知り、その上で生徒自身が考えることができる構成とするなど、道徳教育との接続に配慮されている。</p>

【選定の観点7】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	6 教図	9 開隆堂
<p>○各編が「技術の原理・法則や仕組みを理解する。」「ものづくりなどを通して、技術による問題解決を行う。」「技術を評価し、選択、管理・運用、改良、応用について考える。」の3部構成で系統的・発展的に学習が展開できるようまとめられ、生徒が基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○各編導入で「他教科とのつながり」がまとめられるとともに、「他教科」「リンク」「環境」「防災」マークが具体的な教科や写真などとともに掲載され、生徒が他教科との関連を想起しやすいよう工夫されている。</p> <p>○各編導入で「小学校」マークとともに教科、学年、学習内容が記載され、生徒にとって関連付けが明確で、小学校からの学習の定着や深まりを図りやすい。また、別冊「プログラミング手帳」においても、小学校での体験の個人差に対応できるよう配慮されている。</p> <p>○地域の特産物を調べる活動を通して、生徒が郷土への興味・関心を高め、継承することの大切さを考えられるよう工夫されている。また、日本の伝統的な文化に関する内容に「伝統文化」マークを付し、具体的な写真や内容が取り上げられている。</p>	<p>○全ての内容項目を「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の3部構成で系統的・発展的に学習が展開できるようまとめられ、生徒が基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○随所に他教科や他分野との関連付けを示す「リンク」マークを付すとともに、具体的な教科名や写真を掲載するなど、工夫されている。</p> <p>○各章の導入で、小学校や中学校の学習内容との関連を示す「リンク」マークが付されているもの、教科名だけの紹介にとどまり、関連している箇所が明確でない。</p> <p>○「伝統文化」「消費者」マークが付され、地域の文化や地域で活躍する職人などの具体的な写真や内容が取り上げられている。</p>	<p>○「四つの技術の内容に対する基礎的な知識と技能の習得」「問題を解決する力や、工夫・創造する能力と態度の育成」「よりよい生活や持続可能な社会の構築について考え、評価・活用する力の習得」の3部構成で系統立てて統一されており、生徒にとって学習の見通しが立てやすいよう工夫されている。</p> <p>○各編導入で「中学校他教科との関連」がまとめられるとともに、「他教科」「リンク」「環境」「防災」マークが具体的な教科名や写真などとともに掲載されるなど、生徒が他教科との関連を想起しやすいよう工夫されている。</p> <p>○各編導入で「小学校との関連」がまとめられるとともに、「小学校」マークが教科、学年、学習内容とともに掲載され、生徒にとって関連付けが明確で、小学校の学習内容の定着や深まりを図りやすい。</p> <p>○家族や友人、地域の人たちとの触れ合いや関わりに関する題材を取り上げることで、生徒の家庭や地域への協力などの態度を育めるよう工夫されている。また、日本の伝統的な技術を取り上げ、生徒が日本の伝統と文化の素晴らしさを理解できるよう工夫されている。</p>	

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名		
2 東書	6 教図	9 開隆堂
<p>○写真、図表等の配置が適切で、大きさ・バランスとも見やすく、活用しやすい。また、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などを全て見開きで同じ位置に配置することで、生徒が学習しやすいよう配慮されている。</p> <p>○書体はユニバーサルデザインフォント（UD書体）を使用し可読性を高めるとともに、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家からの校閲を受けている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。</p>	<p>○A4変型判を採用し、写真、図表等、適度な余白が設けられ、大きさ・バランスとも見やすい配置となっている。</p> <p>○文字を大きくし、ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。</p>	<p>○A B判を採用し、図や写真を大きく示すことで生徒が理解しやすいよう工夫されている。また、言葉の判別がしやすいよう改行の仕方を配慮している。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインの視点から専門家による校閲を受けており、色覚の個人差を問わず、見やすくなるようなデザインの配慮がされている。</p> <p>○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。</p>